

CTR NEWSLETTER

No.3
September, 2019



CTR New Research Staff

2019年度からCTRに着任された新しい専任研究員Joseph M. Cheer特任教授とRicardo Nicolas Prozano特任講師にお話を聞きました。



左：Nicolas Prozano特任講師、右：Joseph Cheer特任教授

和歌山大学を選んだ背景

Prozano氏は、修士号および博士号を和歌山大学観光学研究科で取得されています。アルゼンチンのブエノスアイレス出身の同氏は、幼い頃から近所の日本庭園をよく訪れていて、日本への関心から高校では日本語も勉強しました。そんな同氏が日本を選んだのは自然なことで、来日して6年目を迎え、日本語も堪能です。

一方、オーストラリアで生まれ育ったCheer氏は、大学卒業後は銀行やホテルで働き、「研究者としてのキャリアは考えていなかった」と言います。進学して出会った教授やメンターに導かれるように学术界に入り、今では観光学の世界で国際的に活躍しています。特にアジア地域をフィールドや対象とした研究に

長く取り組んでいて、「アジアの地からアジアを捉えることが必要」と、日本に拠点を移しました。

両者ともに教育にも深い関心と意欲をお持ちですが、研究への熱意は強く、「和歌山大学にはCTRが設置されていて研究環境が整っていることが大きな魅力」と言います。

取り組んでいる研究プロジェクト

国際的な研究センターとしてCTRの飛躍を担うお二人は、アジアという地域性を活かした多様な研究課題への意気込みを力強く紹介してくれました。

自らをエコ・ソシヤリストと語るCheer氏は、観光が自然環境や社会に及ぼす影響に関心を持ち、各国の研究者とさまざまな国際共同研究に携わっています。観光地における住民生活に焦点を当てたオー

バーツーリズムの研究や、中国人アウトバウンド旅行者によるカーボンフットプリントの調査等を通じて、特にアジアに注目し、地理学や人類学の観点から観光パターンを読み解くことに取り組んでいます。

アジア研究やネイチャースタディをベースに、文化遺産や宗教的現象への関心から研究分野を観光学に広げているProzano氏は、修験道体験を主題に観光ガイドと旅行者のそれぞれの観点からの研究を進めています。また、巡礼観光の異文化間比較のアプローチによるコミュニティレジリエンスの探究や、関西地域におけるジェントリフィケーションをテーマとしたCheer氏との共同研究も計画しています。

これからの目標

日本における観光学研究は、日本語以外での発信が限定されているため、世界からはまだバールに包まれていると言われていました。「欧米が中心となって発展してきた観光学分野に、日本そしてアジアにおける観光研究をアジアの視点から考察することでアジアの存在感を示したい」とCheer氏が語るように、両氏ともにその現状を打開することに熱意を見せました。彼らを中心に、CTRから世界への貢献がさらに拡大していくことが期待されます。お二人ともさまざまな研究交流に関心をお持ちなので、ぜひ研究室（西1号館1階）を訪ねてみてください。

（聞き手：村野CTRコーディネーター）

Visitors and Events—2019 Spring and Summer

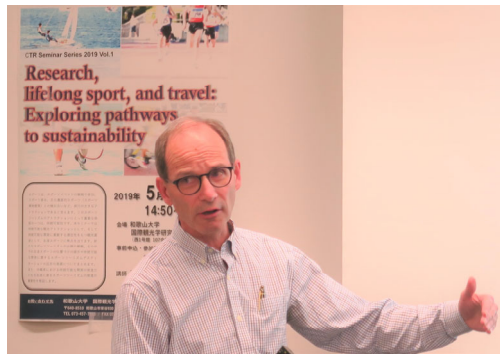
5月7日～18日 **Dr. Tom Hinch (和歌山大学特別主幹教授 / Professor, University of Alberta) 来学**

集中講義、セミナー、研究助言実施、観光学部Tea Time for GP 参加

5月7日～17日 **(観光学部集中講義) Critical Issues in Tourism A**
(観光学研究科集中講義) Leisure and Sport Tourism

5月17日 **CTR Seminar Series 2019 Vol.1**
「Research, lifelong sport, and travel: Exploring pathways to sustainability」

スポーツツーリズムの概論を確認し、持続可能な開発とスポーツツーリズムの関係について日本の特徴も踏まえて体系を整理しました。それを基に、CTRの助成を受けて行った、沖縄に焦点を当てた持続可能なスポーツツーリズムの研究報告を発表し、今後の課題を提示しました。(参加者19名)



6月1日～8日 **Dr. Brent Ritchie (和歌山大学特別主幹教授 / Professor, The University of Queensland) 来学**

集中講義、セミナー、研究助言実施、観光学部宿泊研修参加

6月4日～8日 **(観光学部集中講義) Critical Issues in Tourism B**
(観光学研究科集中講義) Tourism Risk Management

6月5日 **CTR Seminar Series 2019 Vol. 3**
「`Overtourism?' perspectives and a research agenda」

オーバーツーリズムについて概説の上で、政策策定や意思決定には論拠が必要であり、それを提示するための研究として、住民の態度や、政策がもたらす弊害が重要なテーマになり得ると議論されました。その中で、体系化やモデル化が有用な手法として強調され、シミュレーション検証を容易にするアプリケーションの紹介も行われました。(参加者35名)



5月16日 **シンポジウム「国際的視野で考える日本・関西インバウンドの次なる展開～観光地経営とDMOs—the UNWTO. QUEST Program—」**
 ※講師: Patricia Carmona氏 (UNWTO)、Sonia Figuera氏 (UNWTO Academy)、多田 稔子氏 (一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー)、山田 桂一郎氏 (JTIC. SWISS)



各講師から、UNWTOにおけるDMOの意味や海外でのDMO活動成功事例等の紹介、国内事例や実際の経験からの今後の展望及び日本におけるDMOのあり方について提起が行われました。また、DMO認証制度であるUNWTO. QUESTについて解説が行われました。パネルディスカッションでは、参加者からの質問に答える形で各講演内容をさらに掘り下げて説明を加えました。(参加者84名)

5月20日～31日 **Dr. Jasmine Zhang (Postdoctoral Researcher, Umeå University) 来学**

CTR短期研究員招へい制度、ワークショップ、セミナー実施

5月30日 **CTR Seminar Series 2019 Vol.2 「Between mountains and seas: Political ecology of tourism in forests in Southwest China, North Sweden and Japan.」**



講師のこれまでの中国とスウェーデンでの研究課題の紹介を基に森林ツーリズムに焦点を当て、ポリティカルエコロジーと環境人文学の観点で、日本のアニメ映画にも触れながら、サステナブルな森林利用と政策策定について論じました。(参加者10名)

7月8日～12日 **Dr. Richard Sharpley (和歌山大学特別主幹教授 / Professor, University of Central Lancashire) 来学**

研究会、研究助言実施、観光学部Tourism Café 参加

7月10日 **研究会「Some thoughts on the future of tourism」**

今後の観光を考えるにあたり、主な懸念であるオーバーツーリズム及び環境への影響に関する課題を軸に、航空業界や人口変遷の問題にも触れ、研究者としての対応を提起しました。経済成長と持続可能性の両立についてを中心に、学生も含めた参加者と活発な議論が交わされました。(参加者8名)



9月22日 **観光教育研究セミナー2019 Vol.1 in 東京「スポーツ ツーリズム M4 ～メガイイベントが日本社会を変える～」**

※講師：Prof. James Higham (University of Otago)、奥本 英樹教授(福島大学)、水野 英莉准教授(流通科学大学)

基調講演では、スポーツの社会的変遷を学術的定義と解釈的見地から解説し、スポーツと観光を取り巻く社会や政治の力がいかに、SDGsに示唆されている現代の課題解決に役立つかを考察しました。パネルディスカッションでは、サーフィンと震災復興やジェンダー平等を事例に、地域振興やSDGsに寄与し得るスポーツイベントの意義や課題について意見を交わしました。(参加者21名)



CTR Researchers' Activities

CTR研究支援プログラム採択プロジェクト

CTR内部の競争的資金の位置付けとして、6件の研究プロジェクトが2019年4月に採択されました。詳細はCTRウェブサイト (<http://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/research/projects/ctrsupport/2019/index.html>) にてご覧いただけます。

Upcoming Events

10月10日@和歌山大学

「IBM SPSS Statistics ワークショップ」開催

※学内教職員、学生限定

11月14日(予定) @和歌山大学

CTR Seminar Series 2019 Vol.4 「(タイトル未定)」開催

※講師：Dr. Richard Sharpley (和歌山大学特別主幹教授 / Professor, University of Central Lancashire)

11月15日@和歌山大学

「2019年度CTR研究集会」開催

※CTR研究支援プログラム採択プロジェクトの6件の中間報告とCTR専任研究員による研究活動報告を実施する予定です。

2月17日～19日@和歌山大学

「Critical Tourism Studies-Asia Pacific 2nd Biennial Conference」開催

※CTR共催

2月26日～28日@和歌山大学

「Future Tourism Leaders Workshop」開催

※UNWTO駐日事務所、和歌山大学、JICA共催で公開シンポジウムと学生対象のワークショップ(申込み制)を実施する予定です。

※その他最新情報はCTRウェブサイトをご参照ください。

CTR 研究員出版業績

CTR研究員の論文や著書等の業績をCTRウェブサイト (<http://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/resource/publication.html>) で紹介しています。ご覧ください。

From Wakayama to Asia, and to the World

Conference Reports



7月1日～4日 「APTA 2019」@ダナン (ベトナム)

The 25th Asia Pacific Tourism Association Conferenceに和歌山大学は5年連続でスポンサーとして参加し、CTR研究員の伊藤央二准教授と永井隼人講師、観光学研究科博士後期課程の学生1名が研究発表を行いました。



7月8日～9日 「第3回 日本ウズベキスタン学長会議」@タシケント (ウズベキスタン)

日本とウズベキスタンの交流発展を目的に4年毎に開催されている会議に、観光学教育・研究分野の代表校として本学の伊東千尋学長が参加し、「異文化交流促進に向けた人材育成・研究」をテーマとした分科会のモデレーターを務めました。

※その他多数の学会・会議等の参加報告記事は、CTRウェブサイトにてご覧いただけます。

Research Support

SPSS貸し出し開始

分析ソフトウェア (IBM SPSS、SPSS Amos) を整備しました。CTR研究員であれば学内での利用が可能です。10月にはワークショップを開催いたします。ぜひご参加ください。

インセンティブ制度拡大

学内のCTR研究員を対象に、観光分野に関連した競争的資金の申請及び、論文掲載に対し、インセンティブ経費を配分します。ぜひご活用ください。

Upcoming Major Tourism Academic Conferences

2020年2月10日～13日@オークランド
(ニュージーランド)

CAUTHE 2020

<https://www.cauthe2020.org/>
発表論文提出締め切り：2019年10月1日

2020年5月27日～30日@高雄 (台湾)

APacCHRIE 2020

<https://apacchrie2020.com/>
発表論文提出締め切り：TBA

2020年7月1日～4日@チェンマイ (タイ)

APTA 2020

<https://www.apta2020.org/>
発表要旨提出締め切り：2020年2月23日

<編集・発行>

和歌山大学 国際観光学研究センター Center for Tourism Research

〒640-8510 和歌山市栄谷930 和歌山大学 西1号館1階

TEL: 073-457-7025

E-mail: info-ctr@ml.wakayama-u.ac.jp

Web: <http://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/>